

趣 旨

神奈川大学 21 世紀 COE プログラム
国際シンポジウム実施委員会

人類文化研究のための手がかりは、文字に記録されたものとどまらない。そのことにねらいを定めた神奈川大学 21 世紀 COE プログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」の取り組みは、今年で 4 年目を迎え、これまでの共同研究の成果を世に問うべく第 2 回国際シンポジウムを開催することになった。

昨年開いた第 1 回のシンポジウムでは、「非文字資料とは何か」というテーマのもと、国内外で非文字資料に関わるさまざまな分野で先駆的研究を行っている研究者を招いて、その現状を報告していただき、私たちの研究の足場を固める上で大いに参考になった。そして今回は、テーマを「画像・民具・景観 非文字資料から人類文化を読み解く」と定めて、私たちのメンバーがこれまで共同研究してきた中身を報告して、各位のご批評を仰ぐことにした。

シンポジウムは 4 つのセッションに分け、まず、非文字資料をめぐる方法論についての問題提起を行い、続いて、それぞれ画像、民具、景観に焦点を当てて、そこから何が読み取れるのかを明らかにし、それらの報告や討論を踏まえて、最後に、非文字資料を総合・統合的に体系化する方法の共有化をめざして、総括討論を行う。

このテーマに関心をもつ多くの識者の参加を得て、新たな人類文化研究の可能性をより確かなものにする機会としたい。